

ヒメハルゼミの新産地

登 日 邦 明

淡路島におけるヒメハルゼミ *Euterpnosia chibensis* Matsumura の産地としては、三原町八木馬廻(川原 1933, その後再発見されていない)、論鶴羽山山頂付近、南淡町阿万ショウブ谷の3ヶ所が知られているが、筆者は山崎俊道氏と共に本年(1975)7月12日に洲本市の三熊山中腹(標高30~50m)で本種の合唱を聞き、分布を確認した。

三熊山は、洲本市の背後に位置する標高133mの低山であり、山裾まで市街地が迫っている環境であるにもかかわらず、北面にはスタジイ、ツブラジイ、ホルトノキ、タイミンタチバナなどを主体とした自然林が比較的良好に残っており、ヒメハルゼミはこれらの残存植生と共に今日まで生き残ったものと思われる。しかし、合唱から推察できる個体数は15~20頭程度で、論鶴羽山のものに比較すると、はなはだ貧弱である。しかも、登山道の周辺では林床が荒されて光が入っている所もあり、また開発に伴って徐々に自然林が崩壊される可能性もあるので、行末が危ぶまれる。

尚、本年7月下旬にも、洲本市の先山(448m)で青雲中学校の生徒が本種の鳴き声を聞いたと伝えられるが、再確認する必要がある。

編 集 後 記

- ▽ 本年度の2号目をお届けします。
- ▽ 本会も明年で創立10年になります。この間、会員諸兄の熱意と地道な努力によって、島の昆虫相は次第に明らかにされてきましたが、まだまだ未知の分野も多く残っています。対象となるものが消滅しないうちに、記録しておいてやりたいものです。

(T)

PARNASSIUS 第15

1975年11月30日発行

編 集 登日邦明

発行所 淡路昆虫同好会

〒656-21 兵庫県津名郡津名町大町畑235 登日方

印刷所 れいめい社

〒656 洲本市本町5丁目1番24号